

過疎・高齢化に直面しているわが国の
中山間地域(里山・里海)における災害
高齢被災者の生活の様子概観と遠隔
ケアシステムの導入について

長野県看護大学 渡辺 みどり

長野県栄村の位置



長野県栄村の概況

人口・世帯数の推移

平成25年5月1日現在

人口	男	女	世帯数
2,193人	1,034人	1,159人	899世帯

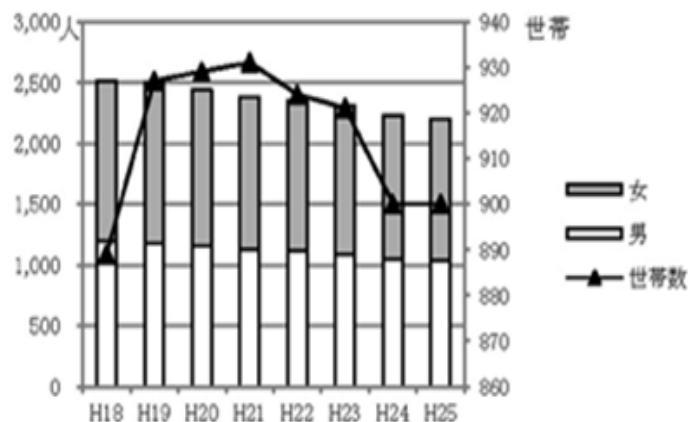
年齢区分	人口(人)			比率 (%)
	男	女	計	
年少人口	93	89	182	8.3
生産人口	530	480	1,010	45.8
高齢人口	416	595	1,011	45.9

2012村勢要覧から

●人口推移 (各年4月1日現在) (単位:人、世帯)

年度	人口			世帯数
	男	女	総数	
H18	1,195	1,320	2,515	889
H19	1,182	1,323	2,505	927
H20	1,158	1,280	2,438	929
H21	1,128	1,255	2,383	931
H22	1,117	1,231	2,348	924
H23	1,090	1,221	2,311	921
H24	1,050	1,183	2,233	900
H25	1,039	1,164	2,203	900

※外国人含む (資料:総務課)



●平均・最高年齢・高齢化率 平成25年4月1日現在

	男	女	全体
人口計	1,039人	1,164人	2,203人
平均年齢	54.5歳	60.1歳	57.5歳
65歳以上	416人	595人	1,011人
高齢化率	40.0%	51.1%	45.9%
最高年齢	103歳	103歳	103歳

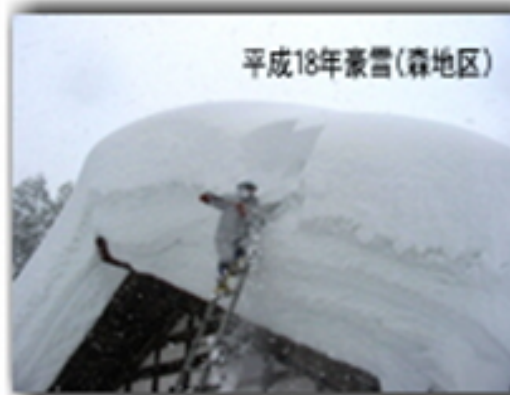
※外国人含む (資料:総務課)

長野県栄村の冬の風景



長野県栄村の豪雪

豪雪の村



栄村は、日本有数の豪雪地として知られています。これまでの記録では、昭和20年2月12日に、観測史上最高の7m85cmを記録しています。観測地であったJR飯山線森宮野原駅構内には、当時の積雪と同じ高さの標柱が建てられています。

長野県看護大学

「栄村サラスプロジェクト」について

- 長野県看護大学では、2002年遠隔看護開発基盤研究プロジェクトを立ち上げ、最新の情報通信インフラを活用した遠隔看護機器及びシステムの開発を通じて、訪問看護ステーション等の機能の充実を図り、在宅療養者と家族への質の高いサービスの提供と医療費の効率化・低減化に貢献することを目指してきました。
- このコンピュータを用いた遠隔ケアシステムを「Salus」（サラス）といい、豪雪地域の被災高齢者の生活支援、在宅療養支援に活用し高齢者の生活支援への活用可能性を検討しています。
- 長野県看護大学遠隔看護開発基盤研究プロジェクト(研究代表者:北山秋雄教授)の研究成果(第8回ルーラルナーシング学会学術集会の発表)の一部を以下に報告します。

長野県看護大学 「栄村サラスプロジェクト」サテライト開設式



調査について

【目的】

過疎・高齢化に直面しているわが国の中山間地域(里山・里海)における災害高齢被災者の生活ニーズを予備的に調査し、効果的な遠隔ケアシステム構築について探索する

【方法】

対象： 2011.3.12長野県北部地震の被災地(栄村)の後期高齢者28名

方法： 事前に調査依頼した栄村社協所属のヘルパー5名が調査協力に同意が得られた対象者宅を訪問して聞き取り調査を行い、記述統計解析した。

倫理的配慮：

- ①「30分程度本調査の趣旨と注意事項」(認知症等の障害のないこと、同意を得ること、プライバシーに配慮すること等)を説明
- ②ヘルパーが本調査の趣旨と「注意事項」を対象者に口頭で説明し同意を得た

結 果

- ◆ 年齢範囲：77歳～92歳（平均85歳、SD5歳）
- ◆ 家族構成：一人暮らし23名(82%)、その他5名
- ◆ 健康状態：とても健康2名、まあまあ健康10名(36%)、あまり健康でない13名(46%)、健康でない2名
- ◆ 通院・買い物の不便感：あり15名(54%)、なし13名
- ◆ 一人外出の不便感：あり17名(61%)、なし10名
- ◆ 自分で電話をかける：あり26名(93%)、なし2名
- ◆ PC所有：あり1名(3.6%)、なし21名
- ◆ 携帯電話を持っている：はい 8名(29%)（その内、3日以上/週は4名）、いいえ13名(その内、「持ちたくない 8名」)
- ◆ 月額利用料金：1,000円以内 3名(3.4%)

まとめ

◆ 栄村は、人口減少と高齢化（独居世帯の増加）等による地域の衰退が懸念されており、高齢者の生活支援が行政の課題となっている。その解消策の一つとして、地域医療福祉のICT化を検討しているが、今回の調査から、主に以下のような課題が表出した。

- 1.通信機器に対する高齢者の忌避感・拒否感
- 2.利用料金に対する不安・懸念
- 3.行政の加重負担の不安・懸念

今後、高齢者にやさしく個別性を考慮した、廉価なネットワークの開発と行政に対する丁寧な説明と連携が、特にへき地における地域医療福祉のICT化に不可欠であることが示唆された。

（本内容は、2011年日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会で発表したものの一部です。）

参考文献

- 北山秋雄: 最先端の遠隔看護システム「Webcomcare Salus」の現状と展望. 第14回日本医療情報学会, 2010.5.28, 高松市.
- 北山秋雄: 遠隔ケアシステム構築のための災害高齢被災者の生活実態予備調査. 日本ルーラルナーシング学会第8回学術集会, 2010.10.13, 和倉市.
- 北山秋雄, 安田貴恵子, 清水嘉子他 (2008): 里山における遠隔看護システムの活用に関する検討. 日本遠隔医療学会雑誌, 309-310, Vol 4(2).
- 北山秋雄, 安田貴恵子, 清水嘉子他 (2010): 遠隔看護システム開発の現状と課題. 日本遠隔医療学会誌, Vol 6(2):183-185.